

令和7年度から、新たな教育長として市川俊美氏を迎え、始動した町教育委員会。町立学校の再編や学校給食センターの更新など、待ったなしの事業が控えている。新教育長の素顔はいかに…横顔にも迫ります。

小川町は教育者としての「ふるさと」です

小川町の多くの方々に支えられてきた私にとって、小川町は教育者としての「ふるさと」です。そのふるさとをより良くするための教育課題は山積ですが、学校再編や部活動の地域展開、不登校対策等の課題、さらにこれまで継続してきた「おがわ学」の進展等に改めて気を引き締め、情熱と使命感を胸に取り組みでまいります。



Q 教育長として目指す町教育の在り方は？

A 公教育の軸をしっかりと立て、社会に貢献できる力を養うことが重要と考えています。0～15歳のスパンで出口を見据え、切れ目のない教育体制を築いていきたいです。これまで以上に現場へ通います。

Q 小川町との関わりは？

A 旧上野台中や東中、役場での勤務経験（計16年間）があります。やっぱり「陸上競技」のイメージが強いでしょうか（笑）。今回の件もそうですが、小川町には「縁」を感じています。

Q 小川町の良いところは？

A 自然が豊かで伝統文化が息づく町。何より、魅力的な「人」が多いところですね。

Q 初めての議会（令和7年6月3日開会）に向けて意気込みを！

A 学校教育だけでなく、生涯学習の分野も所掌しています。精一杯取り組みますので、お手柔らかにお願いします（笑）。



「議会広報発行特別委員会」全員で全力取材!! 新教育長の活躍を期待しています。

シリーズ 16の二歩!! 進み続ける議会

新型コロナウイルスの影響で「動けなかった」議会が今までにないハイスピードで進み続けている。議会初となった「ブレ地区懇談会（P23参照）」の開催、「議員定数を検討する特別委員会」の設置など、時代にマッチした「動く」議会にリニューアル中である。今任期も9月で折り返しを迎え、後半の2年間に突入! この歩みは止まらない!

「議員定数検討特別委員会」からの報告 委員会報告から次回選挙に向けて

特別委員会の設置から半年。これまでに7回の委員会を開催し「定数」の在り方について議論を重ねてきた。大正大学の江藤俊昭教授（公共政策学科）から講義を受ける中で、議員力・議会力の不足を痛感する。ともに「議員定数」について考えてみませんか。

これまでの議論と歩み

- 2024 令和6年12月
「議員定数検討特別委員会」設置 ～16人の定数の検討開始～
- 12月12日
- 2025 令和7年1月8日
第1回 目的・スケジュールを決定
- 1月24日
第2回 専門家による研修を決定
- 大正大学 江藤俊昭教授の講義 1月28日
議会の動きが見えないから「定数削減」の考えになる
- 第3回 講義の振り返り 2月5日
- 第4回 ワークショップ形式による論点整理
「16人議会のメリット・デメリットを洗い出す」

定数16人

現状維持

- ◇女性や若者候補が出やすい!
- ◇地域の声を届けられる!
- ◇少数意見も議会に届けられる!

見直し・削減

- ◇議論がまとまりづらい!
- ◇人口減少の中、定数・議会費の削減も当然!
- ◇議員間での活発な議論こそ必要では?

多様な意見・考えが議会に反映される

減らしても住民の意見を聞く力が落ちるとは言えない

議員の資質向上が人数の問題を解決していくのでは

議員の最大の仕事・責任は「議決」。質疑や質問が活発に



議員・議会の現状を洗い出す厳しい議論

- 2月18日
第5回 ワークショップから見たテーマ①
「住民の声を反映する議会に16人は必要か」を議論
- 3月17日
第6回 ワークショップから見たテーマ②
「定数削減で議会の体制や運営状況はどうなるか」を議論
- 4月11日
第7回
「現状維持か削減か」各委員が意見表明 → 「削減」が多数

今後の予定

委員会報告を作成 → 6月定例会で報告